

<今回>286回目 2020年11月23日(月)15時~18時 1503号室
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p245、酒匂筆跡の探究 より

<前回>285回目(20-11-09) 出席者 9名
資料(20-11-09-1)前回のまとめ(清水)
-2)考古学者 奥野正男さん 訃報(高山)

A 報告 11月6日午前10時から「多元の会」の藤田隆一氏の Skype ソフトでビデオ会議7回目。百濟禰軍の墓誌の解説が藤田氏より行われた。系図 福一善一善一軍 福は東晋ができる頃戦乱を逃れて百済にきた。植進一素士一仁秀 この3人は墓も墓誌も出ている。

禰軍の名前は日本書紀の天智紀4年(665)に出ている。劉徳高の随従者(新羅本紀には唐軍の司馬)日本の残党は扶桑に拠りて誅を逃れ の表現がある。僭帝を唐に帰順せしめた功があるとも。この帝は東の天子か。

11月14,15日八王子セミナーハウスで古田武彦記念セミナーが持たれた。会場30人web26人計56人参加。邪馬台国の音表記、短里説、アンデス、博多湾岸説、官職名、呉氏との関係、戸籍にみる2倍年暦など
B-2)奥野正男氏がこの6月6日に亡くなった。反骨を貫いた在野の考古学者である。北海道で生まれ北海道の高校を出て九州で働いた。三角縁神獣鏡は日本製である。笠松文様の解析が有名である。最後は宮崎公立大学教授に迎えられた。アカデミズムと戦った。(朝日新聞)

C 読書 p237 実体不明の「緘口令」から

- 1) 参謀本部で解説作業が行われたことは世に知られていなかった。解説校閲に動員された誰もがこのことを日記などに書いていない。誰も書いていないのは参謀本部から厳しい緘口令が出されていたからだと言はう。
- 2) 真相の鍵 「碑文の由来記」宮内庁書陵部(図書寮)と横井忠直の「高句麗碑出土記」が合本されていた。李は同じ横井の本と見て分離して考えなかった。ここに誤断があった。
- 3) 内容を見ると差がある。①1 人称の文体、主語、余を出土記は使う。由来記は主語抜き。②臨地と机上。由来記は具体的に情景を描写する。③石碑の位置 出土記は川の中に立っているように書かれている。由来記は現地の正しい描写。④將軍墳の描写が由来記は実測、出土記は机上で整理した学者風。
- 4) 強迫の報告者 盛京將軍左氏が工人4人を天津より呼び、摺写せしむ。2カ年にして漸く其の文字を解することを得ても不分明、1昨年より22幅、盛京將軍より督促を受けて出さず、脅迫して漸く手に入れたり。出土記は一見紳士風に入手の様子を記しているが由来記の方は明治の武人らしく、自分の野蛮な功名を無邪気に誇っている。陸軍大学校教授の横井忠直はそれを穩便に書き直した。
- 5) 太王陵と將軍陵(塚)の2大墳墓(石積) 古碑瓦の回収を5日間で4個しかできなかったのを、無損の磚瓦1個につき現金10銭としたら半日で10個余集まった。これが本部にいまあるものである。酒匂は参謀本部の所属で本部に報告した。内部文書である。事の真実をありありと告白している。
- 6) 出土記は「会余録」として外部に公刊された。由来記は内部文書だから合本された。(横井は自分が現地を調査したのではないから現地調査の報告書を付録として付けたのだから非難されることはない。)

次回日程 2020-12-4(金) 15時から18時 603会議室

-12-18(金) 14時から18時 602会議室

2021-1-8(金) 15時から18時 306会議室